

■横井小楠 政治思想家。維新後の世界を構想し、志士たちの行動に根拠を与えたが、維新直後に暗殺された。

よこいしょうなん

浮世風呂・・1809＝ 肥後国熊本城下で、熊本藩下級武士の次男に生まれる。

伊能測量終・1816＝ 7歳： 藩校時習館に学ぶ。

水野忠成老中1818＝ 9歳：

日本外史・・1827＝18歳：

天保大飢饉始1833＝24歳： 時習館居寮生となる。

・・・・・1836＝27歳：

大塩平八郎乱1837＝28歳： 居寮長となる。

蛮社の獄・・1839＝30歳： 藩の推薦で江戸に遊学。「遊学雑誌」。

勸進帳初演・1840＝31歳： 酒で失敗して帰国させられた。

天保改革始・1841＝32歳： この頃、同志と実践的朱子学のグループを結成して学問と政治の一致を目ざし、“実学”を唱え、

順天堂始・・1843＝34歳： この頃、*私塾を開く。徳富一敬(蘇峰の父)が弟子の第1号であった。

阿部正弘首座1845＝36歳：

尊徳報徳論・1851＝42歳： 越前福井藩を訪れ、同学に「文武一途之説」を贈って戒め、由利公正らに多大の影響。

万次郎帰国・1852＝43歳： 「学校問答書」を書く。

ペリー来航・1853＝44歳： 小川ひさをめとる。プチャーチンとの応接について「夷虜応接大意」を書く。

開国開港・・1854＝45歳： 兄の死によって家督を相続したが、実学党の名まえが広く知れわたったにもかかわらず、肥後では不遇な一藩士にとどまった。

安政大地震・1855＝46歳： 妻ひさが死去。

松下村塾・・1856＝47歳： 矢島つせと再婚。

五ヶ国条約・1858＝49歳： *福井藩主の賓師として招かれ、福井に出向いた。おりからの安政の大獄で藩主松平慶永は隠居謹慎させられたが、小楠は儒教の民富論、交易論によって藩政を指導し、農民の積極的参加を原動力とする生糸の大量輸出によって巨大な利益を挙げた。以後、維新の志士が次々と会見。

桜田門外変・1860＝51歳： この政策の指針となったのが問答体の「国是三論」である。

生麦事件・・1862＝53歳： 慶永が隠居のまま幕府の政事総裁職に就任すると、小楠はそのブレーンとして江戸で活躍。建策し、幕府が参勤交代制を事実上廃止し、大名の妻子を人質とすることをやめて帰国させる。「七条」「攘夷三策」を書く。しかし、友人と酒宴中に刺客に襲われ、逃げたのが士道忘却だと非難されて失脚したため、欧米との条約を根本的に見直して全人類対等の新しい基準を立てようという大経綸は実現できなかった。

8月18日政変 1863＝54歳： *「処時変議」を書く。熊本藩から土籍剥奪の処分を受けて、熊本郊外の沼山津に閑居した。

禁門の変・・1864＝55歳： 「海軍問答書」を書く。井上毅が小楠の談話を録して「沼山対話」とする。

薩摩藩士密航1865＝56歳： 元田永孚が小楠の話を録して「沼山閑話」とする。

大政奉還・・1867＝57歳： 越前藩に「国是十二条」を示す。「大政奉還後の政局について」松平慶永に建白する。

明治維新・・1868＝59歳： 新政府によって京都に呼び出され参与に就任したが、老齢と病気のため目覚ましい仕事もできないまま、

戊辰戦争終・1869＝60歳： 尊攘激派生き残りの不平分子集団に暗殺された。